

高度救命救急センター一発足へ

重症患者搬送にヘリポート

西日本の要に



阪大病院屋上のヘリポートで着陸したヘリから重症患者さまを運ぶレスキュー隊員と救命救急センターの医師たち

阪大病院高度救命救急センターがまもなくオープンします。昨年10月に発足した阪大病院救命救急センターがハイジニアックして、厚生労働省から高度救命救急センターとして認可される見込みになったのです。ヘリポートも完備し、関西だけでなく、中国・四国地方もカバーでき、

西日本の救命救急センターの要となるものと期待されています。阪大病院には1967年に開設された特殊救急部があり、大阪府内の救命救急センターでは治療できない広範囲にわたるやけどや意識不明になるような外傷など数多くの重症患者さまを引き受け、治療してききました。その実績をもとに昨年、改めて救命救急センターとなったのですが、さらに設備、人員などを充実して、府内10カ所の救命救急センターの中核施設となると、広域的に重症患者さまをカバーすることになったのです。

阪大病院では特殊救急部の時代から外科系だけでなく、内科系の医師はもちろん、基礎医学分野や検査部放射線部も非常に協力的で24時間迅速で適切な

高度救命救急センターとして認められる以前にも、広島県呉市内の病院からヘリコプターで両足に原因不明のガス壊疽を起こした患者さまが搬送され、心臓腫瘍が足の血管に詰まったためとわかりました。両足は切断しましたが、一命をとり留めました。この他にも、徳島県や鳥取県など中国地方の重症患者さまを治療しています。現在のベッド数は20床で、ICUが4床あり

な対応ができています。また、治療困難な症例に対する新しい治療法も開発してきました。さらに、最新鋭の診断機器も導入しています。例えば、すぐに患部を3D映像として見ることでできるCTをいち早く取り入れるなど、患者さまに負担をかけることなく診断できるようにしています。

阪大病院屋上にはヘリポートがあり、遠くからの患者さまを受け入れることができます。緊急の時代から外科系だけでなく、内科系の医師はもちろん、基礎医学分野や検査部放射線部も非常に協力的で24時間迅速で適切な

阪大病院に、4月1日から感染症対策部と血液浄化部が設置されました。

急センターでしたが、これからは西日本のセンターとして、さらに抱負を語っています。

充実した救命医療を目指す、指してまいります」と、抱負を語っています。

感染症対策部を設置 4月から 血液浄化部も

阪大病院に、4月1日から感染症対策部と血液浄化部が設置されました。

からだの抵抗力の弱っている入院患者さまが抗生物質の効きにくいMRSAのような細菌に感染しては大変です。また、医者や看護婦が結核に感染していたり、患者さまから肝炎ウイルスに感染したりするの予防がなければなりません。

阪大病院内にもこれまで感染症対策部はありませんでしたが、専任の担当者がいまいませんでした。しかし、今回の新システムでは専任者が設置され、院内感染の予防対策づくりはもちろん、もし、感染が起っても適切な治療体制を素早くとれるようになりま



ヘリで運ばれた重症患者さまにききと処置する救命救急センターの医師、看護婦たち

阪大病院の診療・看護の質

第三者評価でも「合格」

阪大病院が大学病院としての機能を十分に果たし、医療の質も満足できるものであることとが、(財)日本医療機能評価機構によって認定されました。

第三者による医療機能

関係の評価は医療の質を向上させるためにも必要で、同機構は6年前に設立され、認定基準を満たしている医療機関に認定証「写真」を交付してきました。

診療の質は確保されているか、看護体制やケアの質は十分か、患者さまは診療、看護を受けられているか、病

門家によって行われています。

認定証の有効期限は5年間ですが、阪大病院では、評価に満足せず、これからもより一層、医療の質を高めるように、職員が一丸となつて努力しなければいけないと考えています。

心臓移植手術に 高度先進医療の適用申請

国立循環器病センターとチームを組んで行って来た心臓移植は現在10件です(阪大は4件)。阪大と同センターでは高度先進医療としての適用を厚生労働省に申請しており、近々承認の見込みとなっています。

高度先進医療は保険診療がベースとなるために、患者さまの金銭的な負担が軽減され、先進的な医療を受けやすくなるシステムです。現在、遺伝子治療など50を超える高度先進医療が認められています。心臓移植に高度先進医療が認められますと、一層普及する可能性が高くなり、保険適用も視野に入ってきます。

21世紀の医療を目指す 中期目標と行動計画

運営を合理化、教育、研究との連携を強化し、高度化、多様化する医療に対応できる阪大病院の平成15年度までの中期目標と行動計画を策定しました。

平成10年に中期目標設定委員会を設けて、平成11年から15年までの「教育・研究・運営等の中期目標と行動計画」を策定し、それに基づいて運営してきました。よりよい中期目標とするために、このほど見直したのです。

主な内容は遺伝子治療やロボット手術の導入など高度先進医療の推進、開発医療の質の向上、患者サービスの充実、地域社会への貢献、卒業教育、研修を徹底、経営の合理化、効率化などです。

この中期目標、行動計画を達成することで、阪大病院がさらに質の高い医療を提供できるようになると期待しています。

院内学級で初の入学式



4月6日に阪大病院の院内学級で初めて入学式が行われました。今年の新入生は中学部で男子が1人、小学部で男女3人でした。「入学おめでとう」と飾り付けされた教室で行われた式にお父さん、お母さんと一緒に出席した子供さんたちは先生たちのお話にじっと聴き入っていました。

院内学級は1997年に大阪府立刀根山養護学校の分教室として設置され、入院中の小中学生に義務教育を行っています。

質問箱

Q 病院の1階ホールの壁に「当病院は医薬分業推進のため、院外処方箋を出しておりますのでご協力ください」と書かれています。院外処方箋とは何ですか？

A 院外処方箋というのは、患者さまが病院や診療所内の薬局ではなく、市中の薬局で調剤してもらうために病院や診療所を出してもらう処方箋のことです。診療は病院や診療所で行い、薬は薬局で出してもらうシステムのことを医薬分業と呼んでいます。阪大病院でも医薬分業を推進するために、院外処方箋にもしてもらうようにしています。というのも、医薬分業は国の政策として医療に占める薬剤費の割合を減らし、いわゆる薬漬け医療を是正するための有効な方法と考えられているからです。

また、院外処方箋を受け付けた薬局では調剤のたびに、患者さまの薬の記録(薬歴)をつけて、アレルギーや副作用のチェックをしています。さらに、いくつかの病院にかかっているときには、あらかじめ薬局が決まっている(かかりつけ薬局)と、薬の重複を防ぎ、飲み合わせのチェックもできます。ですから、かかりつけ薬局を決めて、院外処方箋にもらうことで、薬を有効に安全に使うことができます。

阪大病院では診察のときに医師に「院外処方箋を」と、言えば院外処方箋を出してもらえます。また、1階に「院外処方箋相談窓口」がありますので、気軽に相談してください。(薬剤部長・黒川信夫)

大きな病院では、熱が出て体がだるいときに、初診で、どの診療科を受診すればいいかわからないことがよくあります。また、他の病院で病気の原因がわからないので総合病院を紹介されることもあります。阪大病院ではそのような場合に総合診療部が窓口になっています。

総合診療部は内科系と外科系の5つの診療科が科の壁を越えて担当しており、病床も5つあります。そして、2つの大きな役割があります。

アメリカのホームドクターがしているように患者さまがどの診療科を受診するのが適切かを見極めて、振り分ける役目がまず第一です。主に紹介状なしで受診しようとする患者さまが対象になります。次に、最先端の医療

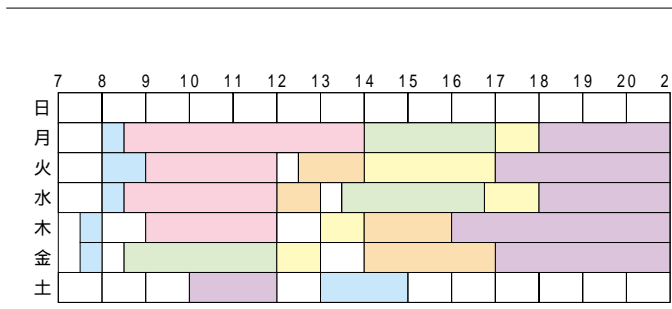


診療科の振り分けをする総合診療部

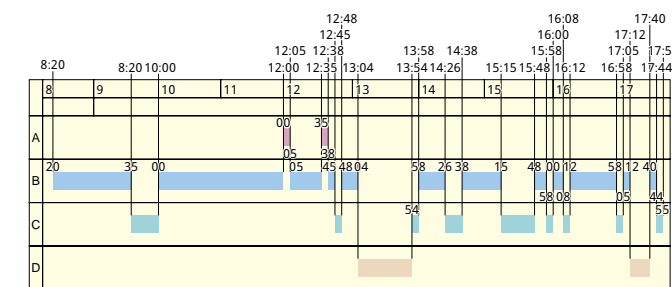
阪大病院の入院患者さまから、主治医の姿を病棟であまり見かけませんなどの声を聞くことがあります。大病院の医師は一般の病院とは違い、診療だけでなく、学生、大学

医師は週57時間労働

研究42% 診療35% 教育15%
質の高い医療へ欠かせない研究



ある医師の1週間



ある看護婦の1日

いつも忙しそうに働いている看護婦。患者さまのケアや医師のサポートなどは知られていますが、目に見えないところでさまざまな仕事をしています。看護婦の1日を追ってみましょう。

看護婦には大きく分けて、外来、病棟、手術部と放射線部などの中央診療部門担当に分かれます。一般的に看護婦といえば、入院患者さまをケアする病棟看護婦が頭に浮かぶと思いますが、病棟看護婦の仕事は多岐にわたります。病棟看護婦は日中勤務8時半～17時、準夜勤務15時半～24時、深夜勤務(0時～8時)の3交替制で働いています。そして、看護婦の仕事は大きく3つに分けることができます。

食事の準備や身体を拭くなどの療養上の看護。次に、点滴や医師のサポート、患者さまの精神的なケアなど診療支援看護。3番目が患者さまの目にはあまり触れない看護記録やデータ入力、点滴の準備などのその他の看護です。これらの業務の時間的な割合をみてみると、診療支援が半分以上を占め、その他の看護が30%前後、療養上の看護が10%程度になっています。ある日勤の看護婦の1日を表にしてみました。分刻みで働いていることがおわかりになりました。

3交替分刻みの1日

看護婦、療養、診療支援に走る

1週間、計66時間も働いていました。その内訳は、診療に20時間、研究は21時間、教育に13時間で、研修医の指導に7時間、会議が5時間でした(グラフ参照)。

研究に割く時間が多く感じられるかもしれませんが、質の高い医療を提供するためには研究も欠かせないのです。さらに統計上には表れてこない労働時間もありません。患者さまの容態は急変もありうるため、医師は24時間待機しているという見方もできます。

院生の教育、指導や研究もしなければいけないのです。そこで、阪大病院の医師は週何時間、どのように働いているのかを調査してみました。

調査は阪大病院の教授、助教授、講師、助教からみると、かなりハ

あつた。平均労働時間は57時間でした。週休2日での1日8時間労働の職場からみると、かなりハ

あつた。平均労働時間は57時間でした。週休2日での1日8時間労働の職場からみると、かなりハ

あつた。平均労働時間は57時間でした。週休2日での1日8時間労働の職場からみると、かなりハ

あつた。平均労働時間は57時間でした。週休2日での1日8時間労働の職場からみると、かなりハ

あつた。平均労働時間は57時間でした。週休2日での1日8時間労働の職場からみると、かなりハ

あつた。平均労働時間は57時間でした。週休2日での1日8時間労働の職場からみると、かなりハ

初診の受診先を振り分け 診断困難な病気に対応

総合診療部

不明の熱が続いている患者さまが他の病院から紹介されてくることもあります。さら

不明の熱が続いている患者さまが他の病院から紹介されてくることもあります。さら

不明の熱が続いている患者さまが他の病院から紹介されてくることもあります。さら

不明の熱が続いている患者さまが他の病院から紹介されてくることもあります。さら

不明の熱が続いている患者さまが他の病院から紹介されてくることもあります。さら

不明の熱が続いている患者さまが他の病院から紹介されてくることもあります。さら

不明の熱が続いている患者さまが他の病院から紹介されてくることもあります。さら

不明の熱が続いている患者さまが他の病院から紹介されてくることもあります。さら

医師会便り

吹田市医師会会長 菱川 音三郎

阪大病院が吹田に移転するに際しては先人の苦勞を惜しまぬ努力がありました。

平成5年6月15日の新聞に、阪大病院イライラ 迫る 9月移転 国が未許可という記事に少し驚きました。

というも、未許可の理由が、大阪府北部医療圏の病床数が必要病床数をすでに141床超過していることにあるからです。

阪大病院移転に関しては地域医療圏にも責任があると考え、6月26日に三島・豊能医療圏の各医師会、府と阪大関係者に集まっていただき調整会議を開催しました。そこで、病床規制にどのように対処するか 移転

に伴う阪大病院と圏域の医療機関との機能分担と連携 の2点を中心に真摯に協議しました。

その結果、各医師会長の英断によって、地域の医療圏として移転承認を決定しました。7月1日に再々、調整会議を開催し、正式な結果報告を中川知事に提出しました。そして、8月には国から移転許可が下りたのです。

移転後は阪大病院の努力によって、救急医療の要となる高度救命救急センターもオープン運びとなり、地域医療ネットワークも地域の中核施設としての機能を十分に果たしていただいています。先人の植えた、苗が立派に育ちました。

今後とも、阪大病院の理念・基本方針を着実に実践され、地域医療の発展に寄与されることを願っております。(大阪府北部保健医療連絡調整会議長、豊能保健医療推進協議会長)